

北海道議会議員
安住たかのぶ
活動報告

アズミライ

azumirai
magazine

この国の夜明けへと

日本という国を、今後、どのように方向づけるのか？

最も大切なテーマはそこにありながら、疑惑隠しと評された解散宣言に幕を開け、次から次へと起こる、まるで、ドラマが現実化したような出来事に目や耳を奪われるばかりの、喧騒(けんそう)に満ちた衆院選が幕を閉じました。

この間の世論や、直接、接する皆さまの声に冷静に耳を傾ける限り、与党自公が圧勝したと言いながらも、国民皆さんからの積極的な信任の下に、この国の未来を託されたとは、必ずしも言えない結果ではなかったかと強く感じます。

同時に、希望は失望に変わったとの声も聞かれますが、結果として、小池さん前原さんの動きと、そこにアンチテーゼ(対照的、正反対の立場)として呼応した枝野さんの動きによって、この国の政治は、次なる段階への、新たなスタートを切ったと見ることもできるのではないのでしょうか。

皆さんそれぞれに、この結果に寄せる評価、想いの違いはあるでしょう。

しかしながら、恐らく、今回の選挙は、そうした皆さん、個々の想いを超えたところで、間違いなく後世の歴史に刻まれる画期的な出来事でした。

その最大の意味は、保守なのか革新なのか、といった伝統的な政治思想やそこに立脚した政党のあり様だけでは、もはや我が国の政治は、目の前の具体的な課題を解決することも、皆さんの抱える様々な想いや願いに応えることもできないという現実です。

さて、今号では、そうした見立ての中での安住自身の立ち位置とともに、第2回定例会の概要について、お伝えしていきたいと思います。



同窓の大先輩！宗谷本線活性化推進フォーラム後の会食で



旭川夏まつり市民舞踊ハレードで



社(幸)英心さん永遠に！食ペルルシェ野点にて



道北地区ラジオ体操コンクールにて



大好きな大雪山連峰



7月17日「道みんなの日」制定を伝える報道から

第7回「安住と一緒に旭川の未来を考える会」で



旭川ハーフマラソン今年も完走！チームの仲間と



旭川肢体不自由児者父母の会チャリティーパーティーで

外国の方

に、限られた言葉でこの国のことを、
できるだけイメージ豊かにお伝えするとすれば、
四季明瞭、山紫水明、稲作文化、海洋国家といったキー
ワードを上げたいと思います。

砂漠の国には砂漠ならでは、熱帯の国には熱帯ならではの思想や宗
教が成り立つのと同じように、そうした言葉に表される日本固有の自然、風
土を縦糸に、また、歴史の中に刻まれた文化的交流、精神的事件を横糸として、
この国の思想、宗教、文化も形成されてきたと言っても間違いありません。
私が、かつて、遠く旭川を離れ…思い浮かべた故郷のイメージも、やはり、雪を冠した
大雪の山並みや、流れるいくつもの川と橋、四季折々の風景やそこに織り成される暮ら
しの情景で、それら旭川の自然や風土が私の政治的アイデンティティ(自我、拠り所)形
成に、大きな影響を及ぼしているのは間違いありません。
同時に、父母、祖父母、さらにその父母へと…今ここに私が存在する由縁と命の連なりに
想いを馳せる時、私の中に流れる血と生に、言葉に表し難い重さと深い感謝の念が湧き
上がってくるのです。

それを、皆さんが古臭いと思うかどうかは別にして、少なくとも私は、愛してやまない
美しい故郷の自然や、ご先祖様が守り、受け継がれて今ここにある暮らしと街
を、文化を、これから先も守り、発展させていくとの決意の下、政治の世界に飛び
込みました。

申し上げた意味において私の中に流れるのは、右でも左でもない、保守
中道の精神。

伝統を重んじつつ、清新で寛容、かつ穏健なる改革を志向
する、保守本流の思想であると思います。

一方、現実

の社会が抱える、複雑で多様な目の
前の課題に対しては、いわゆる、保・革の伝統的思
想対立を背景とした、従来型の政治アプローチだけでは、解
決の糸口にも辿り着けません。

例えば、止まらない少子高齢化の流れの中で、増え続ける福祉需要を担う
に足る財源を捻出するためにも一定の経済成長は不可欠ですが、ボトルネック
(あい路)となる労働力の不足は、技術革新による生産性向上だけでは、恐らく解消
が困難だろうと見通されます。

そうした課題に答えを見出ししていくためには、良質な労働力を、何らかの手段で市場に供給
する政策が欠かせません。福祉や医療の質的転換、これまで片隅に追いやられてきた若者や
働く女性への支援拡大、広がる格差への対処といった、社会保障や世の中の仕組み全体を、財
源の練り直しとともに再構築するという視点がどうしても必要になってきます。
福祉や社会保障の充実という、革新系政党などが力を入れてきたイメージが強いかもしれませ
んが、それらは今や、保・革を超えた、この国全体で向き合わなければならない最重要課題のひと
つなのです。

さらに申し上げれば、労働力不足の問題に関しては、切迫した現場レベルでは実質的に、外国人
労働者の受け入れが進みつつあるにもかかわらず、移民の取扱いを含めたその見直しについて、
この国の進路や方策を明示している政党は今のところありません。

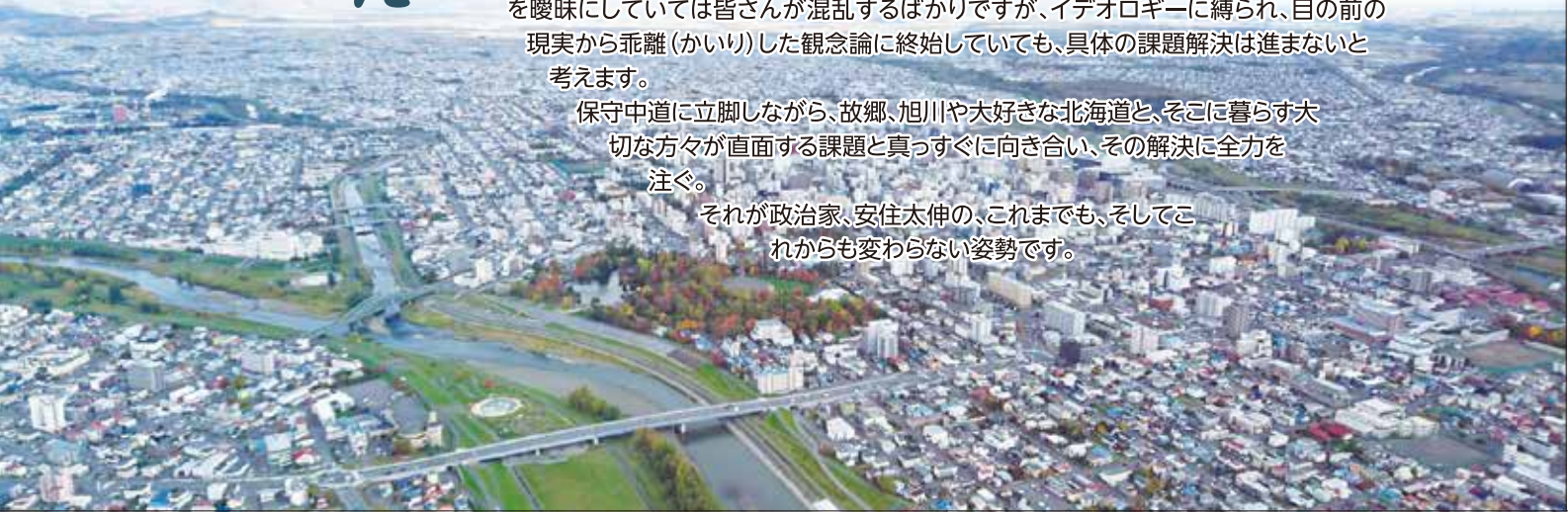
どのような社会を、未来を創っていくのかを使命とする政治が、その基軸となる理念や思想
を曖昧にしているのは皆さんが混乱するばかりですが、イデオロギーに縛られ、目の前の
現実から乖離(かいり)した観念論に終始していても、具体的な課題解決は進まないと
考えます。

保守中道に立脚しながら、故郷、旭川や大好きな北海道と、そこに暮らす大
切な方々が直面する課題と真っすぐに向き合い、その解決に全力を
注ぐ。

それが政治家、安住太伸の、これまでも、そしてこ
れからも変わらない姿勢です。

保守中道の 政治家として

故郷の為に 観念論を超え



平成29年 第2回定例会

後期の正副議長を選出

6月20日(火)に開会となった第2回定例会では、同日、先ずは正副議長の選挙を行い、議長に大谷亨議員(自民党会派)、副議長に勝部賢志議員(民進党会派)がそれぞれ当選。

■ 議長選挙結果

大谷亨 議員 (自民) 96票
川尻秀之 議員 (自民) 1票
布川義治 議員 (自民) 1票
白票 2票
総数 100票

■ 副議長選挙結果

勝部賢志 議員 (民進) 96票
安住太伸 議員 (結志) 2票
滝口信喜 議員 (結志) 1票
白票 1票
総数 100票

引き続き、高橋知事から、総額79億円余りの平成29年度補正予算案を含む18件の議案が提案されました。

続く、6月22日(木)、常任委員、議会運営委員、特別委員の選任が行われ、安住は農政委員会、食と観光対策特別委員会への所属が決まりました。

その後、7月7日(金)、平成29年度補正予算案等議案17件に対する審議が行われ、一部、日本共産党会派による「北海道新幹線の建設費に係る自治体負担は不当」との理由による反対を除く賛成多数で原案通り可決。さらに、追加提案された2議案について審議となり、1件については日本共産党会派を除く賛成多数で、もう1件は全会一致で、原案通り可決となり、閉会となりました。

平成29年度歳入歳出補正予算 (千円)

	今回補正	H29年当初	合計
一般会計	7,048,525	2,753,402,195	2,760,450,720
特別会計	890,888	647,952,358	648,843,246
合計	7,939,413	3,401,354,553	3,409,293,966



採択された決議・意見書は12件

政策審議会、各所管委員会から発議された12件の決議、意見書案が、1件について日本共産党会派からの反対を除く賛成多数で、その他はいずれも全会一致で採択となりました(なお「EU～」については、大詰めを迎えつつあった日EU間の経済連携協定(EPA)の交渉状況を踏まえ、急施を要することから6月28日(水)、先に採択)。

- ・特別委員会の定数及び調査事項に関する決議
- ・EUとの経済連携協定に関する意見書
- ・地方財政の充実・強化を求める意見書
- ・平成29年度北海道最低賃金改正等に関する意見書
- ・雪崩等による山岳遭難者救助対策の推進を求める意見書
- ・安全・安心の医療・介護の実現と労働環境の改善に関する意見書
- ・林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書
- ・道路の整備に関する意見書
- ・義務教育の機会均等の確保と教育予算の確保・拡充を求める意見書
- ・私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書
- ・朝鮮民主主義人民共和国のミサイル発射に関する意見書
- ・EUとの経済連携協定に関する万全の対策とその確実な実行を求める意見書

会派所属議員による質疑・質問

会派の代表格一般質問には、浅野貴博政策審議会(新)筆頭副会長(留萌地域)が立ち、北海道創生や行財政改革に係る知事の基本姿勢を問うと同時に、JR北海道をめぐる諸問題や旭川にも直接係る空港民間委託等の交通ネットワーク問題、観光振興に係りMICE(マイス～国際会議等に伴うビジネス旅行を意味する造語)誘致や宿泊税の検討状況、子どもの貧困対策に係り「子ども食堂」への支援、農業振興に係り農業生産工程管理(GAP～ギャップ)取得の推進などにつき知事に質すとともに、18歳選挙権に係り選挙管理委員長に、また、教育、警察行政それぞれの問題について、教育長、警察本部長に質問しました。

予算特別委員会には、佐藤伸弥議員(網走市)、赤根広介議員(登別市)、白川祥二議員(空知地域)、安住の4名が入り、それぞれ当面する道政課題、地域課題について道の取組みを質しました。

驚きの
2票

副議長選挙に際し、「安住太伸君、2票」と読み上げられ驚愕しました。1期生の名前が上がるなど、前代未聞だそうです。

正副議長選挙のあり方改革を私ども北海道結志(ゆうし)会から呼び掛け、事前に立候補予定者による決意表明を会派として受けたという交渉経緯から、結志会としては、私自身は無論、揃って勝部議員に投票することになっていたの、「では誰が?」と、皆で顔を見合わせました。

真相は今もって不明ですが、逆に、いつの日か…多くの皆様に真に評価いただける議員、政治家を目指し、さらに頑張らねばと心中深く意を決した、思いもよらぬ出来事でした。

予算特別委員会

【質問の概要】

水産林務部

＜林業・木材産業の現状と成長産業化に向けた課題について＞

森林が有する多面的・公益的機能を将来にわたり持続的に発揮させつつ、地目の大部分を森林が占める山村地域の活性化をも実現していくためには、例えば、「作り手も使い手も、人間が人間らしく生きることを叶える産業」といったコンセプトに基づき、互いに反するとされてきた「環境への配慮」と「経済的利益の追求」双方を統合した、林業・木材産業の「新たな価値創造産業化」が必要。

そのために、広葉樹を中心に、より良く育て、価値の高まった段階で選んで伐るといふ、択伐、長伐期施業を本道でも研究、採用していくことで単位当たりの材積を上げ、生産性を向上させると同時に、50年一サイクルで繰り返されてきた、造林や植林、機械化投資といった不可避な高額投資を、天然更新や小規模投資へと切り替えていく。

そうすることで、生産財の価値そのものを高めて、小規模ながら、低コスト化と生産性の向上を実現。さらに、環境や景観の保全といった公益的機能もまた増大させていくような経営の導入を、既存林業の高度化支援とともに合わせて進めるべき。

そうした施業方式を含めた多様な林業経営を実践できるような人材育成が急務。

経済部

＜観光振興について＞

報道によると、国の「地域経済分析システム(リーサス)」を活用してニセコ町が調べたところ、「観光」で十分に稼げていない可能性が高いと判明。原因の一つが町外に出て行くお金が多いことだった。

一般的に観光は、雇用創出などの経済効果が期待できることから、多くの予算を割いた、積極的プロモーションなどを通じ、その呼び水となる観光客の呼び込みで、殆どの自治体は競い合っている。

しかしながら、活発な投資と、年間170万人にのぼる入込客で賑わい、誰もが本道観光の雄と認めるニセコ町ですら、前述の例が示す通り、頑張ってたくさん呼び込み引っ張ってきたお金を、留め循環させることができず外に逃がしてしまっているとのこと。本道観光がもし、どこも似たり寄ったりならそれは、穴の開いたザルに水を注ぎ続けているようなもの。

鍵を握るのはDMO(Destination Management Organizationの略～経営的視点による地域観光開発組織のこと)の形成・確立と、何よりもそのDMOを担う人材の育成。

原材料や労働力などを地元から調達しつつ、それを、来訪者に喜んでいただける商品へと磨き上げていく目利きの鋭さと企画力。調達や磨き上げに係っては、将来にわたり継続的に商品提供可能な水準・仕組みへと、地元を巻き込み創り上げていく交渉・調整力。実地にそうした取組みを推進できる人材の育成が、今、最も重要であり、欠かせない。

同時に、その時そこでしか味わえない、しかし、その地域ではそれが当たり前の日常を、目利きによる見極めの下、来訪者にとっての非日常としてドラマチックに演出するための地域への投資こそが鍵を握ると考える。

平成28年度に道が実施した観光動態・満足度調査の結果からは、本道における観光振興の要となるインバウンド(外国人旅行者の意味で使うことが多い)対策で、案内板や通訳などの基盤整備ですら不十分な実態も浮かび上がってきた。

一定金額以上の高額宿泊者に対する宿泊税を導入するなど、急がれる人材育成や地域への投資、前述の基盤整備に向け必要不可欠な財源の確保をも急ぐべき。



詳しくは、北海道議会のホームページから、実際の質問の様子を動画でご覧いただけます。

<http://www.hokkaido-pref.stream.jfit.co.jp/index.php>

※北海道議会ホームページ「ホーム」>「議会中継」>「議会録画検索」の順に開いたページで、「●議員名から選ぶ」を選択しクリック。次に表示される議員名一覧から「安住太伸」の文字をクリックし、表示される画面で右側にある「再生」ボタンをクリックいただくと、動画再生ページが表示されます。

発行

北海道議会議員 安住たかのぶ 事務所

〒070-0034 北海道旭川市4条通7丁目923-1ヨン・ナナビル3F
TEL.0166-27-3710 FAX.0166-27-3755
Mail minnahkd@ceres.ocn.ne.jp